



2023年5月12日

各 位

会 社 名 株式会社 安永
代表者名 代表取締役社長 安永 暁俊
(コード番号：7271、東証プライム)
問合せ先 管理本部長 北村 直紀
(TEL. 0595-24-2122)

第7次中期経営計画について
(2023年度～2025年度)
～『グローバルニッチNo.1』の柱を増やす～

当社グループは、このたび2023年度から2025年度までの3年間の事業戦略や数値目標を定めた第7次中期経営計画を策定しましたので、お知らせいたします。

1. 基本方針

グループ企業価値の向上に向けて、お客様に信頼される技術・製品・サービスを創造し、高い付加価値を提供し続ける企業グループを目指して、『「グローバルニッチ No. 1」の柱を増やす』というスローガンのもと、以下の3つの項目を重点施策として取り組んでまいります。

- (1) 経営基盤の強化
 - ・挑戦的な企業風土のさらなる浸透
 - ・DXの加速による全社的な生産性の向上
 - ・SDGs、カーボンニュートラルへの対応
- (2) 「グローバルニッチ No. 1」製品のさらなる拡大と充実
 - ・モビリティ社会への貢献
 - ・自動車の電動化、CO₂削減への貢献
- (3) 安永ならではの価値の提供による新事業の創造
 - ・LiB長寿命化への貢献
 - ・モバイル機器等冷却性能向上への貢献

2. 2025年度(2026年3月期)業績目標

(1) 売上高	36,500 百万円
(2) 営業利益	1,900 百万円
(3) 自己資本比率	34%
(4) ROE	10%

3. その他

詳細につきましては、添付資料「2023年3月期決算説明資料および中期経営計画」をご参照ください。

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する主旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上



証券コード
7271

株式会社 安永

2023年3月期決算説明資料および 中期経営計画

Copyright © YASUNAGA CORPORATION. All rights reserved.



- 1 会社概要と強み**
- 2 2023年3月期決算概要**
- 3 2024年3月期業績予想**
- 4 第7次中期経営計画**



1

会社概要と強み

安永にしかできないこと「グローバルニッチNo.1」

商号	株式会社 安永 (YASUNAGA CORPORATION)
所在地	三重県伊賀市緑ヶ丘中町3860番地
創業	1923年6月
設立	1949年9月
資本金	2,142百万円
社員数	608名 (連結1,762名)
事業内容	エンジン部品、工作機械の製造販売 ワイヤソー本体及びその加工用工具部品の製造・販売 検査測定装置の製造・販売
拠点	日本 (三重、東京)、インドネシア、タイ、メキシコ、中国、アメリカ

2023年3月31日現在

自動車関連を中心に、製品と製造設備の両面からモノづくりを支える事業を展開

環境機器

12.7%



エアポンプ



ディスクポータ

機械装置

17.2%



工作機械
(自動車関連)



ワイヤソー



検査測定装置

その他 0.8%

エンジン部品

69.3%



コンロッド



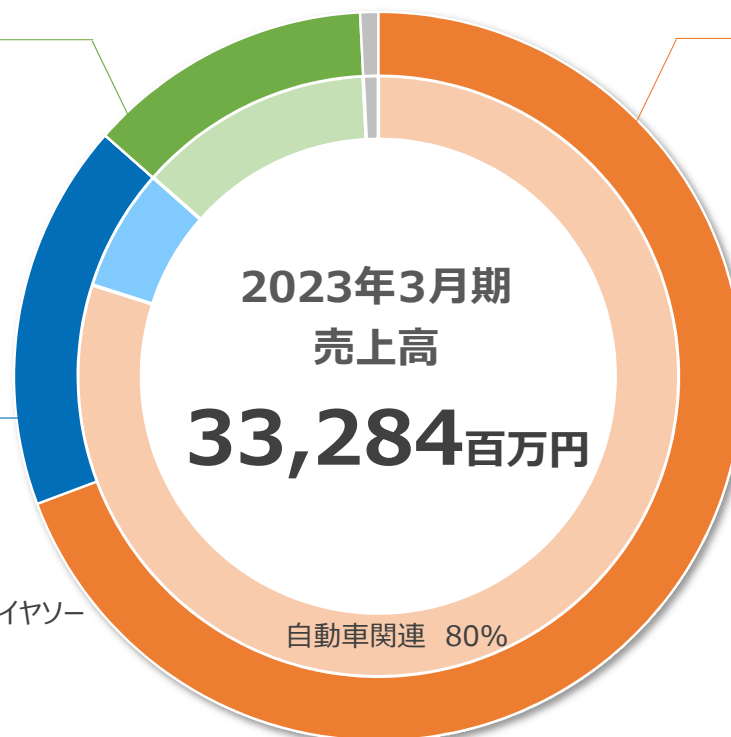
シリンダーブロック



カムシャフト



シリンダーヘッド



安永は時の課題を敏感に受け止め
独創的な技術により価値ある製品を提供し
社会文化の豊かさに貢献します



Fine Response

時の課題を敏感に受け止め、ニーズにすばやく対応する安永

Fine Technology

常に時代の一步先を行く独創的な技術を開発する安永

Fine Products

産業界にとって人々にとって価値ある高品質な製品を提供する安永

Fine Communication

対話をもとに明るく親しまれる企業をめざす安永

Fine Culture

企業としてひとり人間として社会文化の豊かさに貢献する安永

技術開発のあゆみ



創業以来「新しいものに挑戦する」企業風土が根付いており、独自技術を活かして新事業を創造

1953
工作機械
総合的な技術力を養うため
工作機械の内製に着手、
「安永なら何でも作れる」との
評価につながった



1947
ミシンアームベッド
三重県鉄工工業組合員企業からの
要望で製造を開始、安永のアーム
ベッドを使うと生産性1.5倍に上がる
との評判で取引拡大



1923
創業

モノづくり企業としての基盤確立

1972
エアポンプ
環境ビジネスの市場拡大を
にらみ環境事業への進出を
決断、エアポンプを製品化



1956
エンジン部品
機械加工、量産、設備製作の
技術を活かし、エンジン部品の
生産に着手、「コンロッドの
安永」との認知が広がった



1987
検査測定装置
マイコンに関するソフト、
ハードの自社開発力を確立、
マイコン、センサの2要素
技術を活かし製品化



1999
ディスポーザ
生ごみの搬送・収集・処理の
負担軽減、高齢化社会に対応
した衛生的で利便性の高い処理
システムの実現を目指し製品化



1975
ワイヤソー
多角化による一層の飛躍と経営
基盤の強化を目的に生産を開始、
アメリカ、イギリス、カナダ、スイス、
ドイツ、フランスの6か国で特許出願



環境問題、高度情報化社会をにらんだ多角化の加速

2002
クラッキング工法コンロッドライン立上げ
従来工法と比較し工程集約が可能となり生産性
向上とコスト削減に貢献



さらなる新事業
創出へ

2011
安永暁俊社長就任
R&D本部を新設し、既存事業以外の新事業
創出のための研究開発を強力に推進

R&D体制を強化しさらなる飛躍へ

グローバルニッチNo.1



「安永にしかできないこと」にこだわり、ニッチな領域でトップシェアの製品を数多く抱える

エンジン部品

コンロッド

OEM供給
コンロッド
生産実績数

No.1

全世界シェア 約5%

環境機器

エアープンプ

浄化槽用小型
エアープンプ
交換市場
販売数・省エネ

No.1

ディスポーザ

ディスポーザ
排水処理
総合システム
メーカー

国内 No.1

研究開発

R&D

微細形状加工技術
熱電発電技術

No.1

機械装置

工作機械

コンロッド加工設備
生産実績

No.1

- 2軸加工機
- FS加工機

検査装置

検査測定装置
生産実績

国内No.1

- 半導体IC外観検査
- 車載用IC外観検査
- 車載モーター用ネオジム磁石検査
- 太陽電池ウエハ検査

ワイヤソー

加工材料別
シェア

No.1

- 水晶（振動子、周波数フィルター）
- ネオジム/Nd（強力磁石、車のモーターなど）
- 酸化ガリウム/Ga2O3（次世代パワー半導体）
- タンタル酸リチウム（電波周波数フィルター）
- ガリウムヒ素/GaAs（通信材料、LED赤外線素子など）

※当社調べ

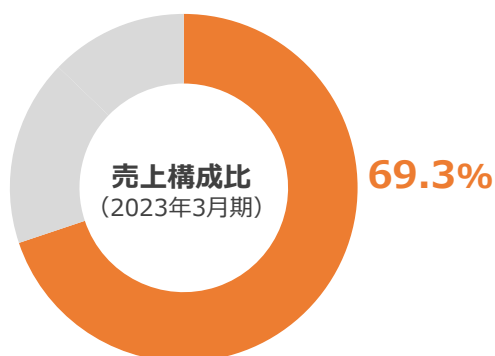
既存技術の進化と新技術の探索で「安永にしかできないこと」を実現



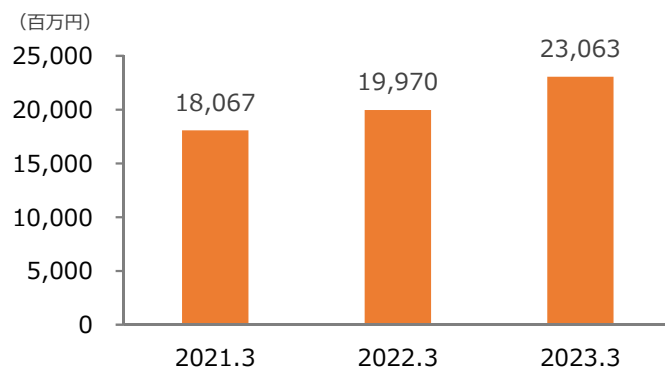
※1 自動車、電子半導体、次世代材料含む
 ※2 大学・研究機関との共同研究含む

事業内容（エンジン部品）

自動車・産業機械向けエンジン部品の精密加工を行うとともに、提案型企業として顧客ニーズに応える製品を提供



売上高の推移



主要製品

グローバルニッチ No.1



コンロッド



シリンダーヘッド



シリンダーブロック



カムシャフト



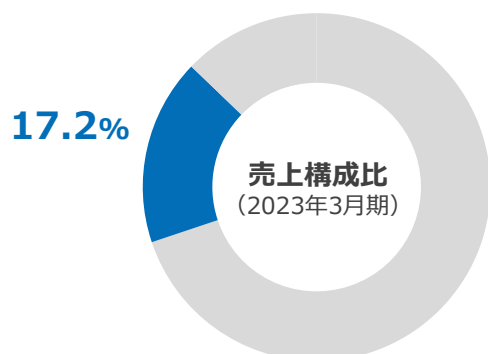
コンバーターハウジング

事業の特長

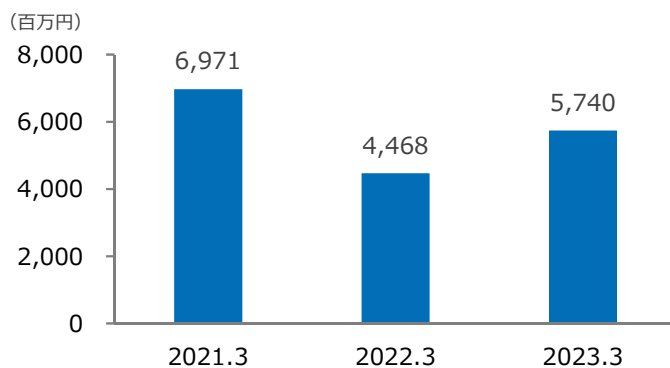
- 世界の自動車・産業機械メーカー他に試作品から、量産品～補給品まで対応
メーカーニーズに応じて、製品設計、オーバーフロー、補給時のものづくりを柔軟に支援
- 多くのメーカーが内製している部品を外注加工、コンロッドを中心とした重要保安部品が主力
ターンキーでの工程設備設計により、重要保安部品の精密加工と量産実績
- 多種多様な製品の量産で培ったノウハウにより、最適なものづくり提案が可能
短納期での量産立上げ、生産技術開発による価格競争力、高品質な量産製造技術

事業内容（機械装置）

切削、切断、研磨、組立、ハンドリング、センシングを組み合わせ、最適な生産設備を提案



売上高の推移



主要製品

グローバルニッチ No.1



コンロッド加工設備
(2軸加工機)



コンロッド加工設備
(FS加工機)



ワイヤソー



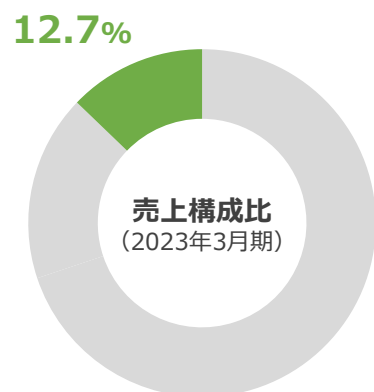
検査測定装置

事業の特長

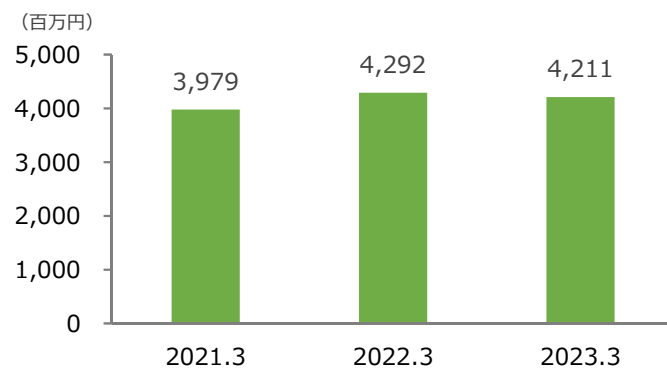
- **自動車・半導体・電子部品分野など多岐にわたる装置開発と納入実績**
標準機からカスタマイズ機まで機械設計と製作が可能
要素技術を組み合わせ、様々なニーズに最適なソリューションを提案
- **コンロッド加工設備の安永**
国内外の自動車メーカーに対応、長年の納入実績、クラッキング技術の蓄積
- **応用分野が幅広いワイヤソーの提案**
硬くて脆い材料を、より薄く精密に大量切断できる。次世代半導体、化合物、焼結材、水晶等の加工ノウハウを蓄積
- **電子部品、車載部品向け外観検査装置をラインナップ**
要素技術を磨きあげ、半導体ICパッケージ外観検査装置は国内トップシェア、燃料電池車動力源向け外観検査ユニットでトヨタ技術開発賞受賞

事業内容（環境機器）

未来を豊かにする環境創造メーカーとして、長年培った技術と品質管理で高度な製品を実現



売上高の推移



主要製品

グローバルニッチ No.1



エアープンプ



ディスポーザ

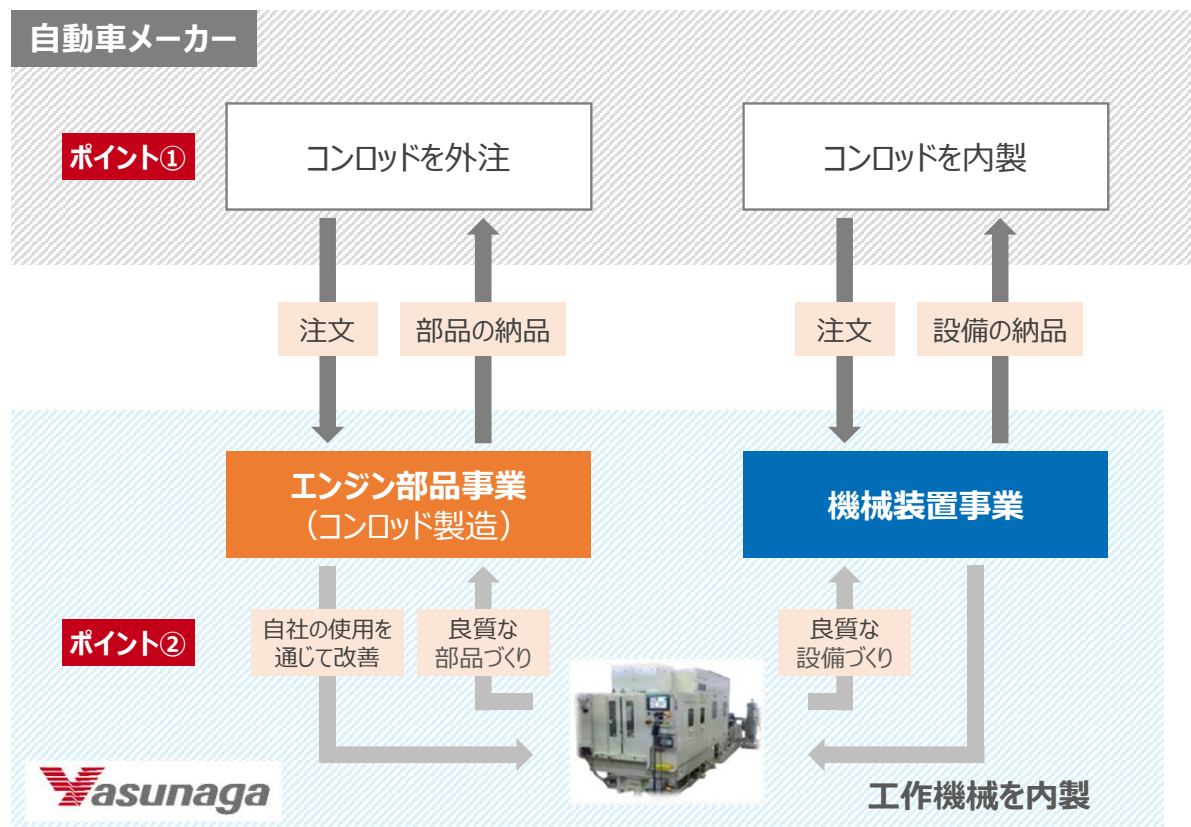
事業の特長

- **水環境を改善するインフラ機器のトップメーカー**
エアープンプ、ディスポーザで幅広い顧客ニーズに対応、長年の納入実績
- **省エネ・低騒音のエアープンプを提案**
好気性微生物処理技術を活かした浄化槽用を柱に、医療用・産業分野用など汎用で幅広く使用される仕様と品質
- **低騒音・低振動で粉砕能力が高いディスポーザを提案**
国内で唯一、システム設置から維持管理まで一貫対応できる総合メーカー
低騒音・低振動と微粉砕設計で環境課題を解決できる仕様と品質

コンロッドトップメーカーとして



製品と製造設備の両面からモノ作りを支える企業



当社の特長

ポイント① 自動車メーカーの幅広いニーズに対応
コンロッドを外注化するメーカー、
内製するメーカー双方と取引が可能

コンロッド世界シェア **約5% (No.1)**

※OEM供給コンロッド生産実績数

日系自動車メーカーが使用するコンロッドの
多くに当社が関わる (外注・内製)

ポイント② 自社で使用する**工作機械**を外販
自社で使用することでノウハウが蓄積し、
工作機械の性能の向上を継続的に図ることが可能

日系自動車メーカー**すべてと取引**あり

グローバルネットワーク



日本、アジア、北米に拠点をもち、地産地消で工場を展開

- A

本社／本社工場
三重県伊賀市
事業内容：機械装置
- B

ゆめぼりす工場
三重県伊賀市
事業内容：エンジン部品
- C

西明寺工場
三重県伊賀市
事業内容：エンジン部品
- D

名張工場
三重県名張市
事業内容：エンジン部品
環境機器
- E

キャスティング工場
三重県伊賀市
事業内容：鋳造
- F

安永東京センター
東京都墨田区
事業内容：機械装置
環境機器



- 1

P.T.YASUNAGA INDONESIA
インドネシア セラン県
事業内容：エンジン部品
環境機器
- 2

YASUNAGA (THAILAND) CO., LTD.
タイ ラヨン県
事業内容：エンジン部品
- 3

YASUNAGA MEXICO S.A. DE C.V.
メキシコ ハリスコ州
事業内容：エンジン部品
- 4

山東安永精密機械有限公司
中国 山東省泰安市
事業内容：機械装置
- 5

上海安永精密切削機有限公司
中国 上海市
事業内容：機械装置
- 6

Yasunaga Corp. America
アメリカ ミシガン州
事業内容：エンジン部品
機械装置



2

2023年3月期決算概要

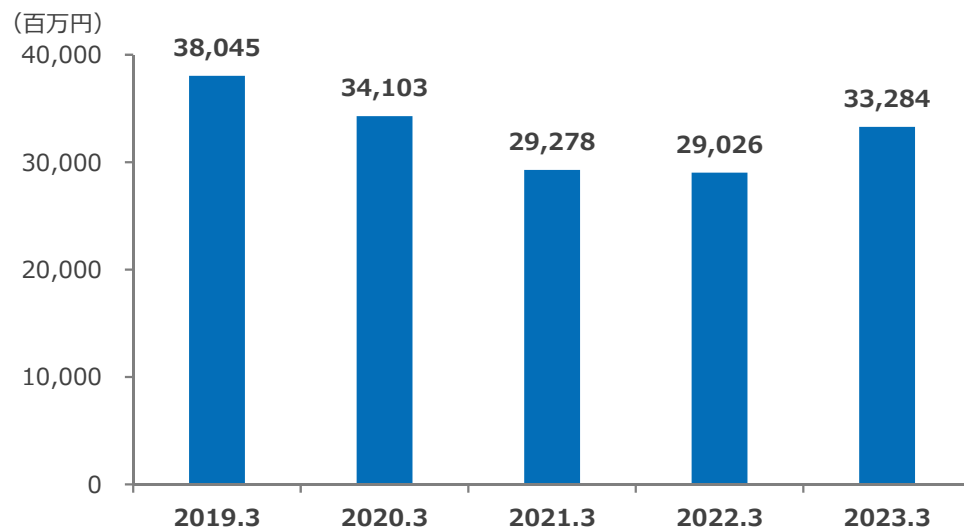
Copyright © YASUNAGA CORPORATION. All rights reserved.

決算ハイライト

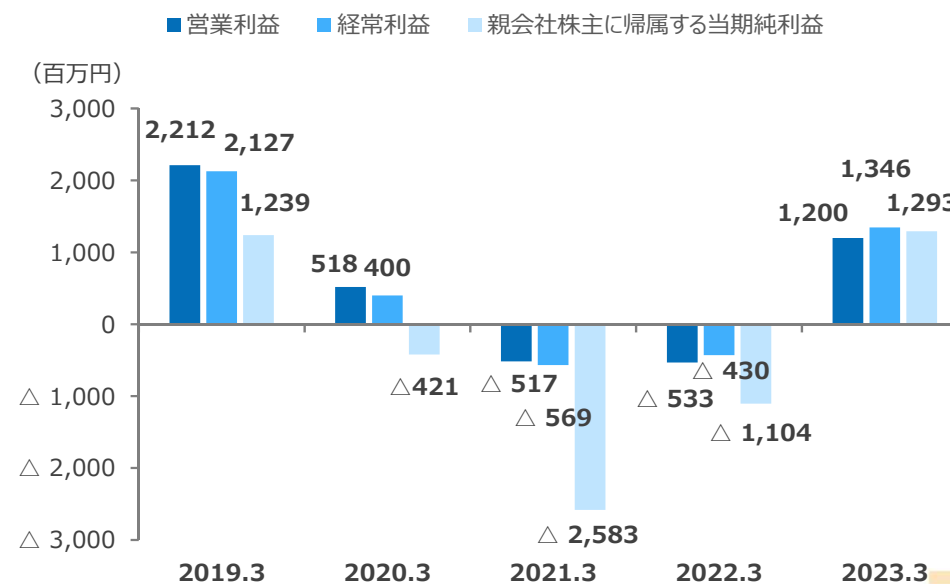


- エンジン部品事業の受注回復により、売上高は増加
- 材料費や電力費の上昇があったものの、原価低減活動等により営業利益も良化
- 円安の影響による海外子会社の円建て借入金の評価替えにより為替差益が発生し、経常利益は良化
- 韓国子会社の株式売却により純利益は大幅増

売上高



営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



損益計算書



(百万円)

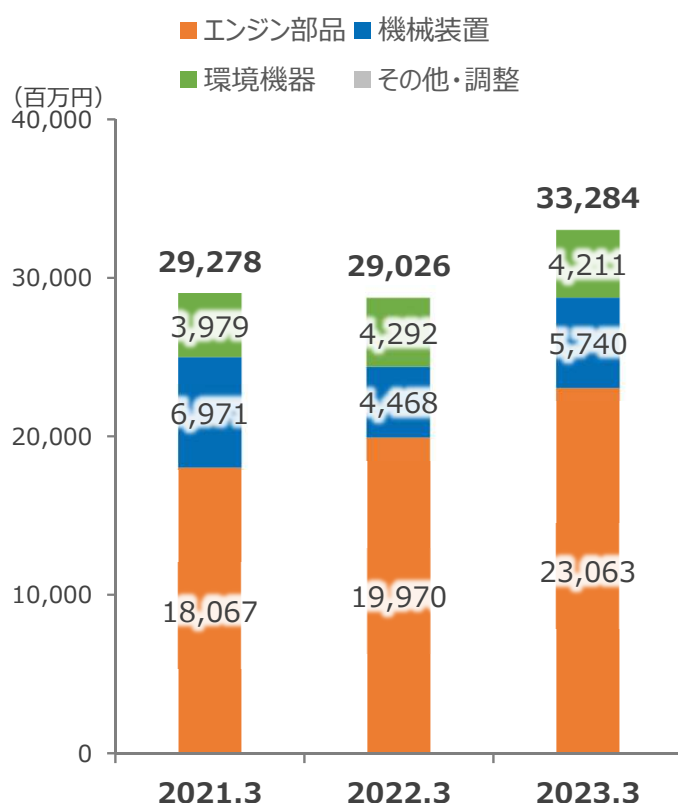
	2022年3月期		2023年3月期		増減率	増減額
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	29,026	100.0%	33,284	100.0%	14.7%	4,527
売上原価	26,177	90.2%	28,575	85.9%	9.2%	2,397
販管費	3,383	11.7%	3,508	10.5%	3.7%	125
営業利益	△533	△1.8%	1,200	3.6%	—	1,734
営業外収益	232	0.8%	345	1.0%	48.7%	113
内、為替差益	64	0.2%	142	0.4%	121.9%	78
営業外費用	128	0.4%	199	0.6%	55.5%	70
内、支払利息	83	0.3%	97	0.3%	16.9%	13
経常利益	△430	△1.5%	1,346	4.0%	—	1,776
税引前当期純利益	△954	△3.3%	1,600	4.8%	—	2,555
法人税等合計	150	0.5%	306	0.9%	104.0%	156
内、法人税等調整額	52	0.2%	77	0.2%	48.1%	24
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,104	△3.8%	1,293	3.9%	—	2,398

セグメント別売上高・営業利益



(百万円)

セグメント別売上高



	売上高			営業利益		
	2022年3月期	2023年3月期	増減	2022年3月期	2023年3月期	増減
エンジン部品	19,970	23,063	3,093	16	897	880
機械装置	4,468	5,740	1,272	△675	45	720
環境機器	4,292	4,211	△80	154	218	63
その他・調整	296	268	△27	△29	39	69
合計	29,026	33,284	4,257	△533	1,200	1,734

売上高増減内訳

エンジン部品

- ・ トヨタグループ +1,544百万円
- ・ GMグループ +913百万円
- ・ その他 +636百万円

機械装置

- ・ 工作機械 +822百万円
- ・ ワイヤソー +208百万円
- ・ 検査測定装置 +241百万円

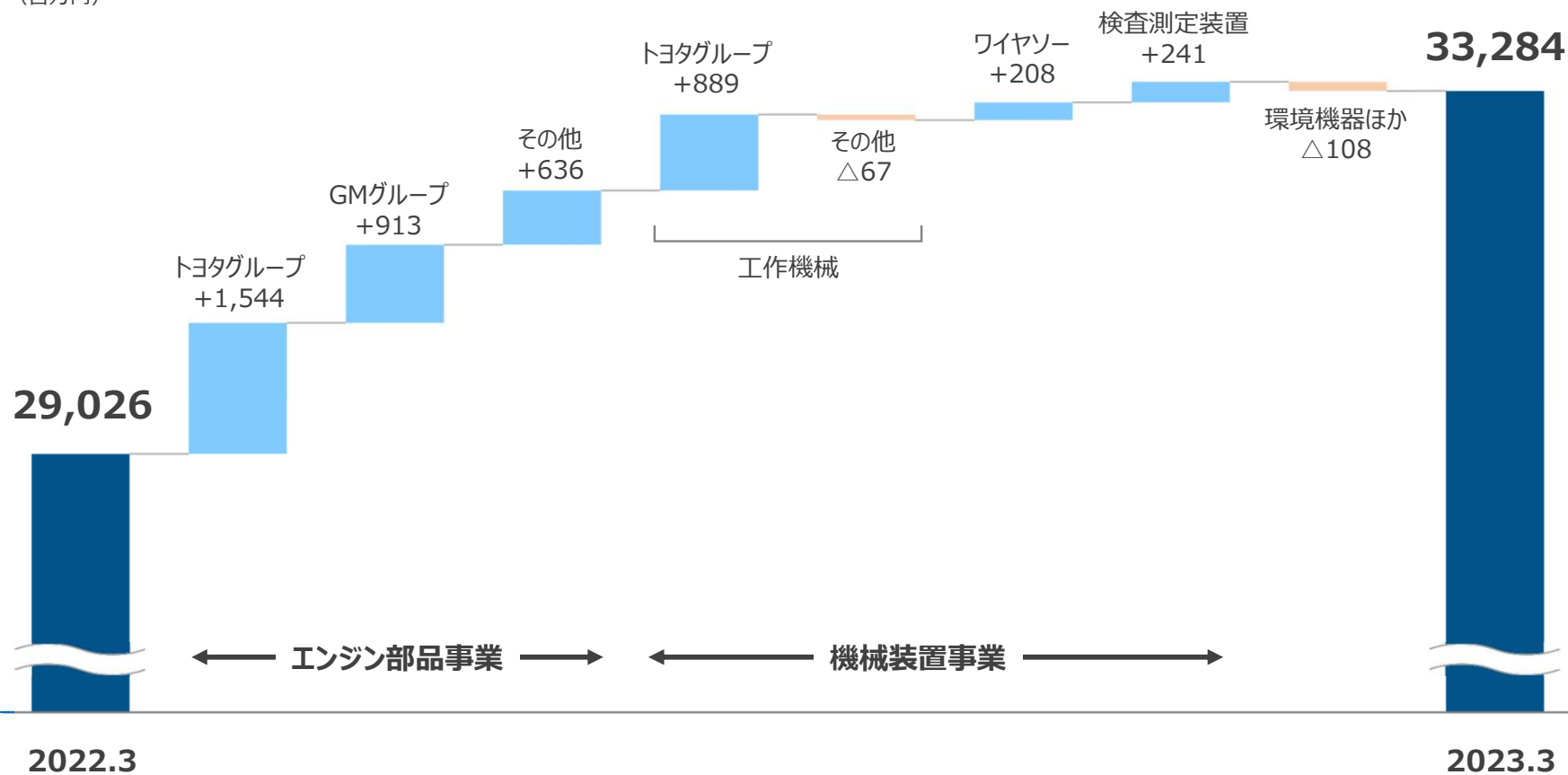
環境機器

- ・ エアーポンプ +67百万円
- ・ ディスポーザ ▲148百万円

売上高増減要因



(百万円)



業績予想との差異



- ・エンジン部品事業の受注回復により、売上高・営業利益とも増加
- ・円安影響による海外子会社の円建て借入金の評価替えにより為替差益が発生し、経常利益も良化
- ・韓国子会社の株式売却により純利益は大幅増

(百万円)

	2023年3月期 実績	2022年5月12日 業績予想	差額
売上高	33,284	32,000	1,284
エンジン部品	23,063	21,700	1,363
機械装置	5,740	5,500	240
環境機器	4,211	4,300	-89
営業利益	1,200	900	300
エンジン部品	897	680	217
機械装置	45	20	25
環境機器	218	200	18
経常利益	1,346	900	446
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,293	850	443

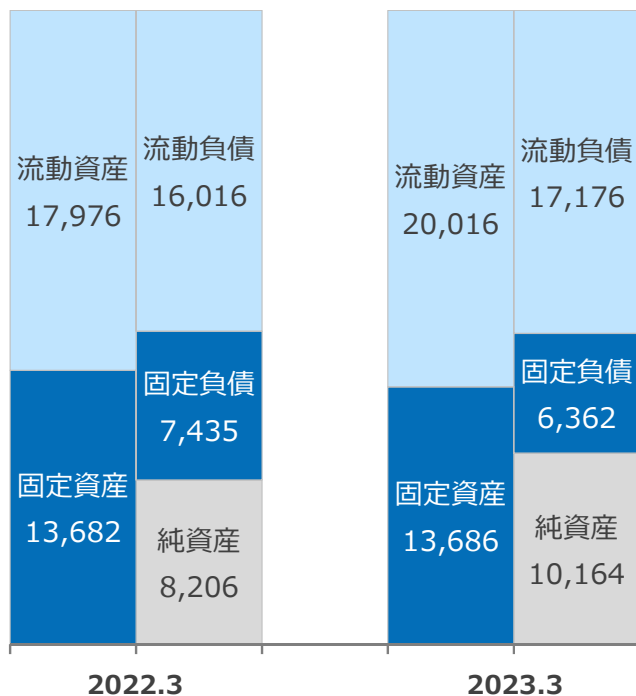
貸借対照表



(百万円)

貸借対照表の状況

(百万円)

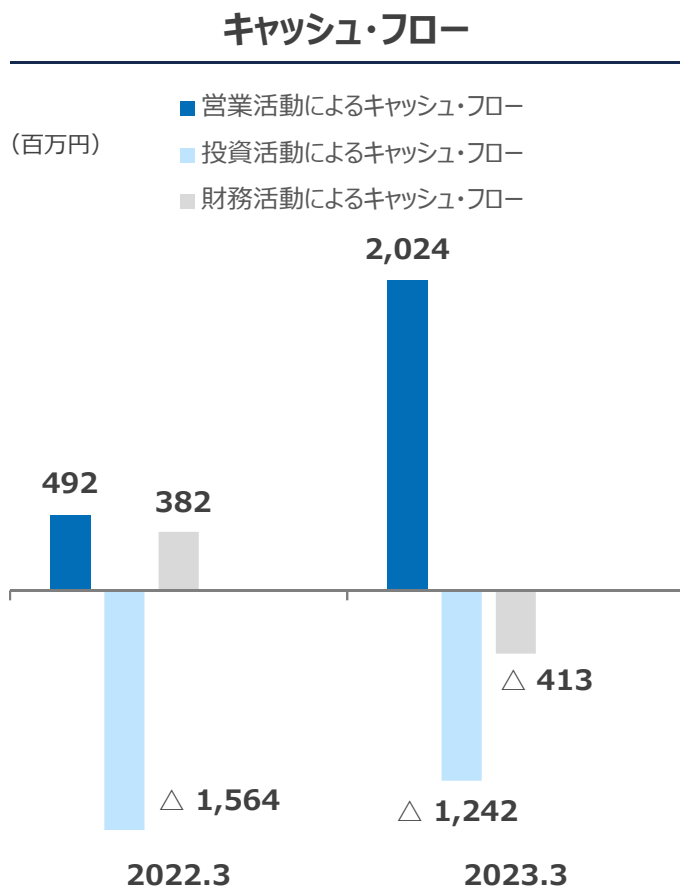


	2022年3月期	2023年3月期	増減額	主たる増減
流動資産	17,976	20,016	2,039	売掛金1,830 現金及び預金591
固定資産	13,682	13,686	4	投資有価証券135 有形固定資産△155
資産合計	31,659	33,703	2,044	
流動負債	16,016	17,176	1,159	短期借入金1,000 支払手形・買掛金522
固定負債	7,435	6,362	△1,072	長期借入金△985
純資産	8,206	10,164	1,957	利益剰余金1,160 為替換算調整勘定722
負債・純資産合計	31,659	33,703	2,044	
有利子負債	15,753	15,579	△174	
自己資本比率	25.9%	30.2%	4.3	
DELシオ	1.92倍	1.53倍	△0.39	
1株当たり純資産	685.96円	849.58円	163.62	

キャッシュ・フロー



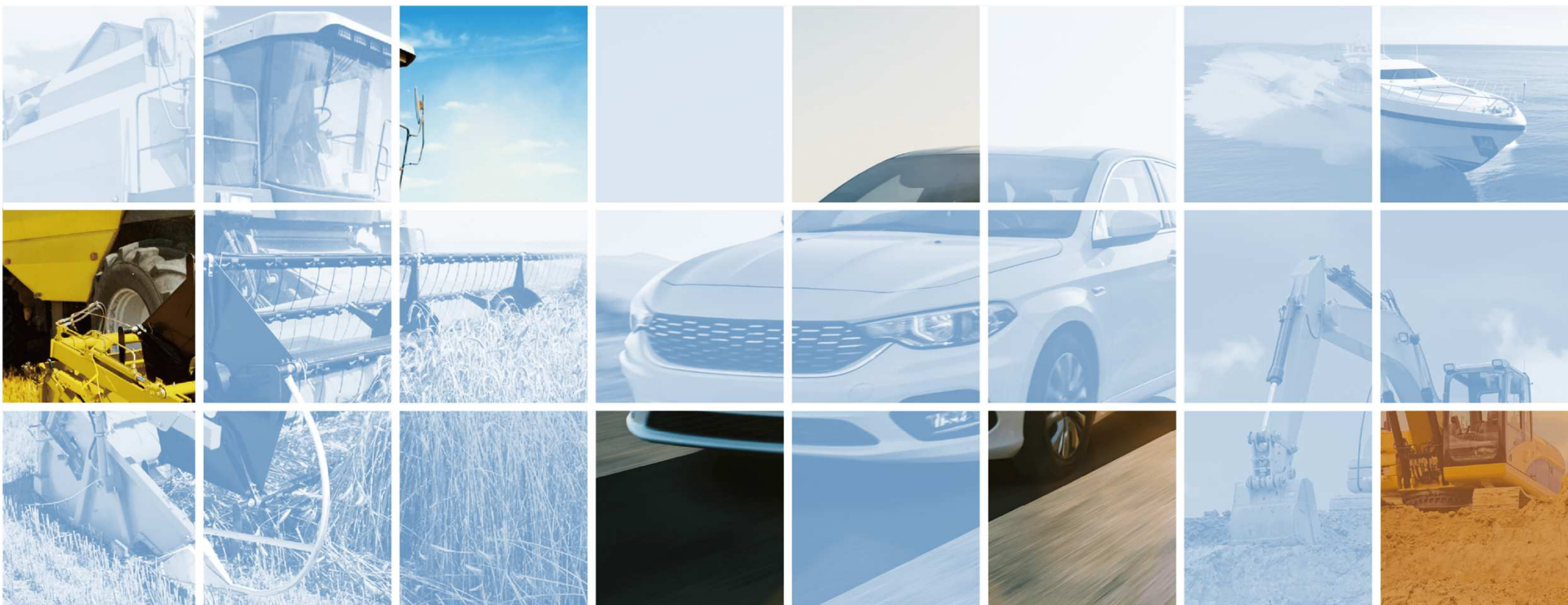
(百万円)



	2022年3月期	2023年3月期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	492	2,024	1,532
投資活動による キャッシュ・フロー	Δ1,564	Δ 1,242	321
財務活動による キャッシュ・フロー	382	Δ 413	Δ795
現金及び現金同等物 の増減額	Δ474	591	1,066
現金及び現金同等物 の期末残高	4,524	5,116	591

主たる要因

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フロー：減価償却費1,970、税金等調整前当期純利益1,600、売上債権の増加Δ1,508
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フロー：有形固定資産の取得Δ1,749、有形固定資産の売却366
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フロー：有利子負債の増減額Δ317



3

2024年3月期業績予想

Copyright © YASUNAGA CORPORATION. All rights reserved.

2024年3月期 業績予想



(百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減率
売上高	33,284	33,500	0.6%
営業利益	1,200	800	△33.3%
経常利益	1,346	650	△51.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,293	500	△61.3%

セグメント別売上高・営業利益予想



(百万円)

	売上高			営業利益		
	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減率	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減率
エンジン部品	23,063	25,400	10.1%	897	940	4.8%
機械装置	5,740	3,500	△39.0%	45	△240	—
環境機器	4,211	4,300	2.1%	218	100	△54.1%
その他・調整	268	300	11.9%	39	0	△100%
合計	33,284	33,500	0.6%	1,200	800	△33.3%



4

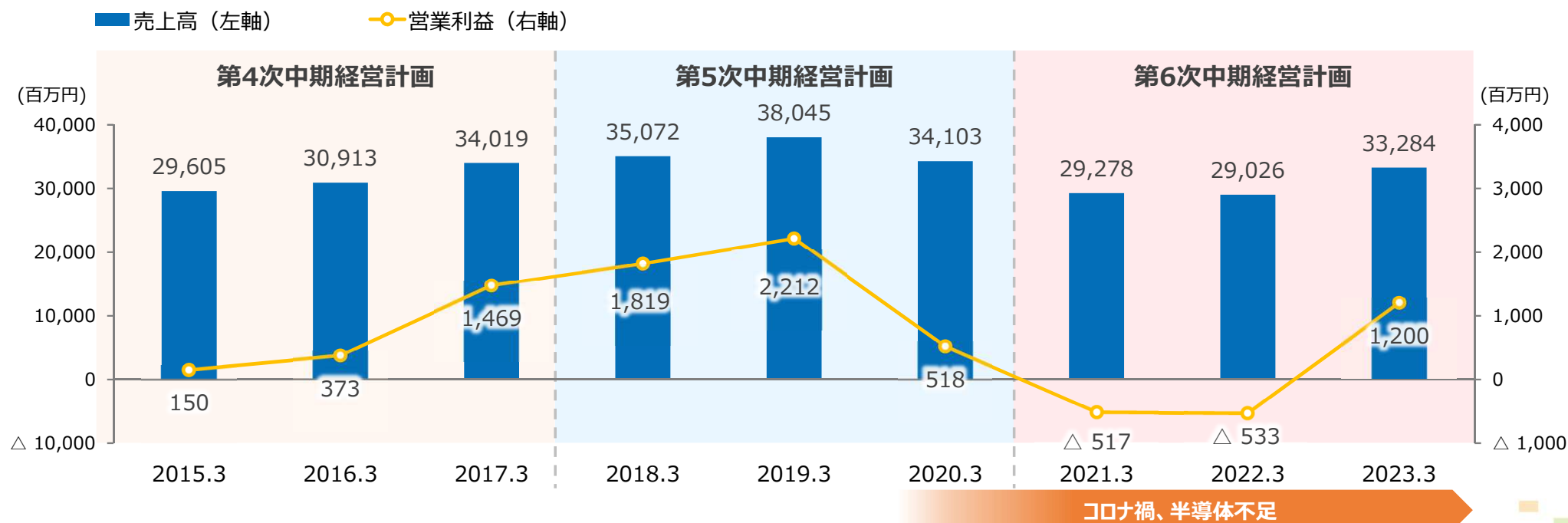
第7次中期経営計画

中計の振り返り



- 「グローバルニッチNo.1」に向けた歩みは順調に進んでいたものの、コロナ禍、半導体不足の影響で足踏みを余儀なくされた
- コロナ禍以降、徹底したコスト削減を図るとともに、顧客の生産再開に迅速に対応
- 顧客企業の生産回復に伴うニーズを確実に取り込み、2023年3月期は3年ぶりの営業黒字化を達成

売上高と営業利益の推移



第6次中計の振り返り



総括

- コロナ禍で数値目標の修正を余儀なくされたが、2022年夏以降の経済活動正常化を背景に、売上高、営業利益については修正目標を達成
- 国内外でのコンロッドの旺盛な需要に対応するため、生産能力増強の準備が着実に進展
- 新事業育成に向け、技術開発が進展し、来期より事業化の目途が立った

スローガン

「グローバルニッチNo.1」を
広げて

重点施策

● グローバルニッチNo.1

自社のコア技術をもとに「グローバルニッチNo.1」を積み重ね、企業価値の向上を果たす

● 新事業の創造

「二次電池関連技術」「熱電発電素子関連技術」の事業化を目指す

● 財務体質の強化

自己資本比率とROEの向上に取り組む

(百万円)	2023.3 計画	2023.3 修正計画 [※]	2023.3 実績
売上高	34,000	32,000	33,284
営業利益	1,200	900	1,200
営業利益率(%)	3.5%	2.8%	3.6%
自己資本比率(%)	(中長期目標) 40%以上	—	30.2%
ROE(%)	(中長期目標) 10%以上	—	14.1%

※2022年5月12日公表

外部要因

- **コロナ禍**からの経済活動の正常化
- 世界情勢の**不確実性**の高まり
- 資源・エネルギーを始めとした**物価の高騰**
- **円安**の進行
- **デジタル化**の加速
- **環境問題**に対する意識の高まり
- 価値観・ニーズの**多様化**
- 自動車の**電動化**の加速



課題認識

- グローバルでの**シェア拡大**と国内生産の確保
- **海外**への販路拡大
- **ストックビジネス**であるエアーポンプ、ディスプレイの売上拡大
- 強みを活かした差別化による**収益性向上**を図り、外部環境の変動への耐性を強化
- **DX推進**による全社的な生産性の改善
- **新事業**からの収益獲得、さらなる新事業育成に向けた基盤強化（技術開発、人材育成）

第7次中計のスタート

技術で世の中を驚かせる会社へ

2011年に社長に就任して以来、新しいことへのチャレンジを続けてきました。技術で世の中を驚かせようと、既存技術の進化と新技術の探索に絶えず取り組んできました。

おかげさまで、既存事業の大きな柱であるコンロッド加工ビジネスで世界シェアを確実に伸ばすことができました。また、次世代パワー半導体である酸化ガリウム向けにワイヤソーを販売することもできました。

2011年に立ち上げたR&D本部(現技術本部)で全くの新規技術の研究開発に成功し、村田製作所と共同で新事業に取り組むことになりました。

新しいことにチャレンジする当社のDNA(文化、風土)を大切に育みながら、これからも皆様に驚かせる技術開発に取り組めます。皆様からのご期待に応えられるよう、グローバルニッチNo.1の企業として、自動車業界のみならず電子半導体業界他にも更なる活躍の場を広げ、新しい事業の柱を創ります。

代表取締役社長 安永 暁俊



第7次中計のスタート



2011年から新事業創造に向けた取り組みを強化し、既存事業の進化と新規事業の探索を推進

新事業における成果 (1)

次世代パワー半導体である 酸化ガリウム向けにワイヤソーを販売

当社のワイヤソーが、次世代のパワー半導体向け新材料である酸化ガリウム向けの加工設備として株式会社ノベルクリスタルテクノロジー様に採用されました。

酸化ガリウムとは？

高耐圧かつ省エネの電力変換・制御用半導体として注目を集める次世代パワーデバイス材料

採用が期待される分野

電力基幹

自動車

鉄道



新事業における成果 (2)

リチウムイオン電池寿命を従来品比 12倍以上に向上させる事に成功

リチウムイオン電池（正極材：リン酸鉄リチウム）の集電箔への特殊加工を独自に開発し、電池寿命を当社従来品比12倍以上に向上させる事に成功しました。

特許取得地域



日本



中国



韓国



台湾

今後の展開

「微細形状形成技術」を用いた技術開発を推進

- 電池性能を向上（①重点時間の短縮 ②充放電サイクル寿命向上 ③電解液含浸時間の短縮）させるための研究開発
- 電池性能を向上させる電極活性化装置を開発した。今後、その拡販を目指す

新事業を新たな柱とすることを目指し、村田製作所と今後も協業関係を強化

新事業における成果 (3)

電子機器向け放熱部品「ベイパーチャンバー」用ウィックを村田製作所と共同開発

当社が独自開発した微細形状加工箔に村田製作所の設計ノウハウを組み合わせることで、電子機器向け放熱部品「ベイパーチャンバー」用に新しい材料を用いたウィックを共同開発しました。

ベイパーチャンバーとは？

- 電子機器内の局所的な熱発生を速やかに拡散できる超薄型の熱拡散デバイス
- 電子機器の高性能・大容量・高速化によるデータ処理量の著しい増加に伴う高熱化により、電子機器への搭載が進む

採用が期待される主な用途



スマートフォン



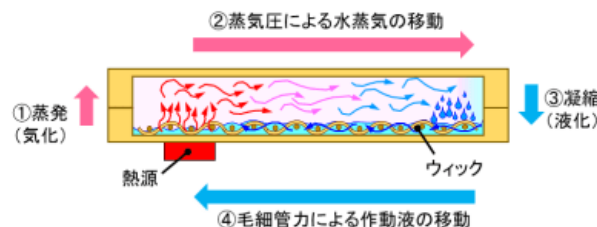
ウェアラブル端末



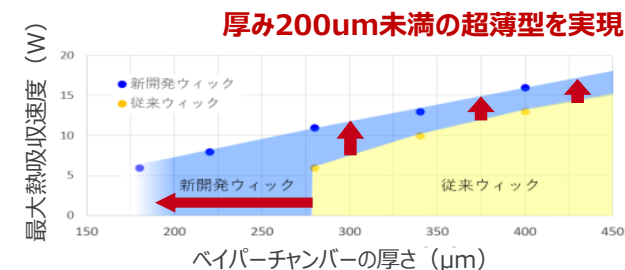
ゲーミングPC

ベイパーチャンバーの放熱の仕組み

熱源で生じた熱を受けて作動液が蒸発し、蒸気がベイパーチャンバー内部で拡散することで放熱を行う



新開発ウィック vs 従来ウィック



第7次中期経営計画スローガン

「グローバルニッチNo.1」の柱を増やす

全社 経営基盤の強化

- 挑戦的な企業風土のさらなる浸透
- DXの加速による全社的な生産性の向上
- SDGs、カーボンニュートラルへの対応

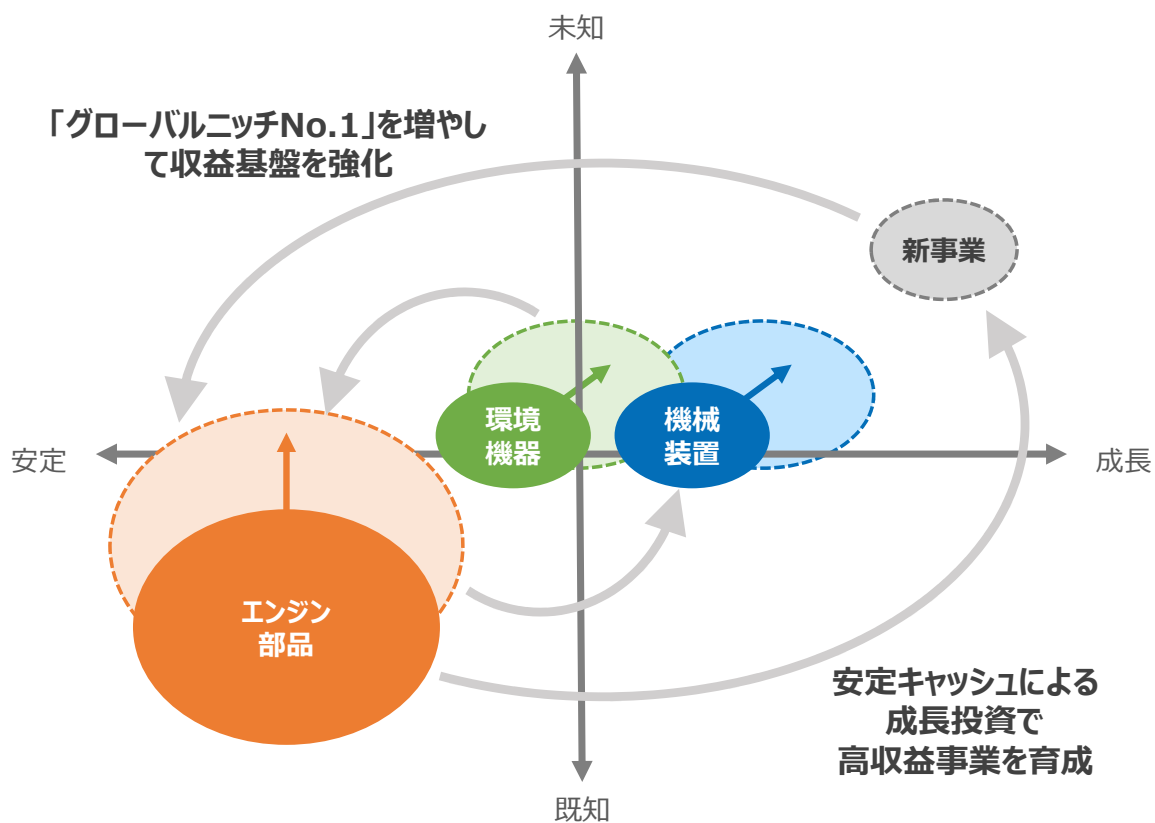
既存事業 「グローバルニッチNo.1」 製品のさらなる拡大と充実

- モビリティ社会への貢献
- 自動車の電動化、CO₂削減への貢献

新事業 安永ならではの価値の 提供による新事業の創造

- LiB長寿命化への貢献
- モバイル機器等冷却性能向上への貢献

経営資源を有効に使い、既存製品の強化と新製品の育成を両立させる



エンジン部品の施策

- 自動車部品の国内外でのさらなる売上・シェア拡大
- 成長分野である建機、農機、産機、マリン・レジャー用エンジン部品の受注拡大
- IoT、ロボット活用による生産性向上

機械装置の施策

- ワイヤソー・検査装置の成長分野（電子部品・半導体）への継続的な注力
- ポートフォリオ見直しによる高付加価値製品へのリソース重点配分

環境機器の施策

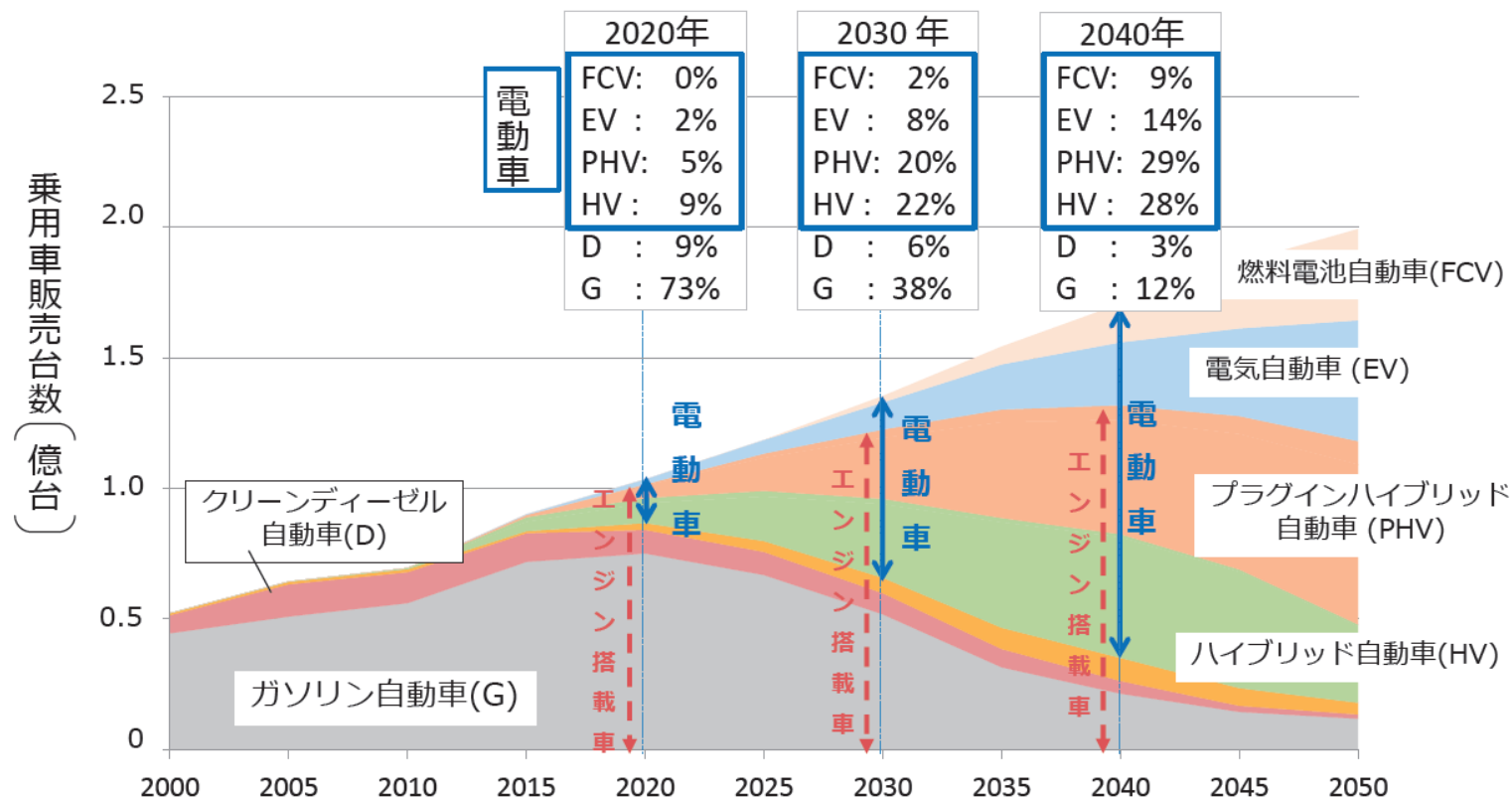
- エアーポンプ・ディスポーザシステムの利益向上とシェア拡大
- 要素技術を組み合わせた新製品・維持管理を付加した新サービスの投入

新事業の施策

- 二次電池、熱発電素子関連製品の市場投入とビジネスモデル確立

エンジンの推移(乗用車用)

乗用車の電動化は加速し、地域および顧客によって多様な動力源が選択される



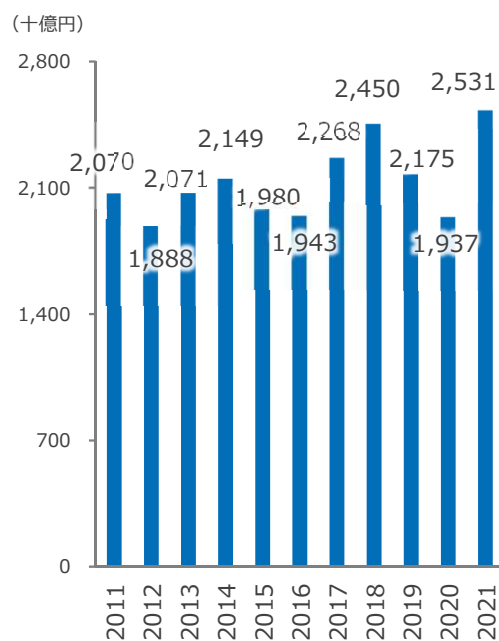
出典：経済産業省「2018年版モノづくり白書」

エンジンの推移(乗用車用以外)



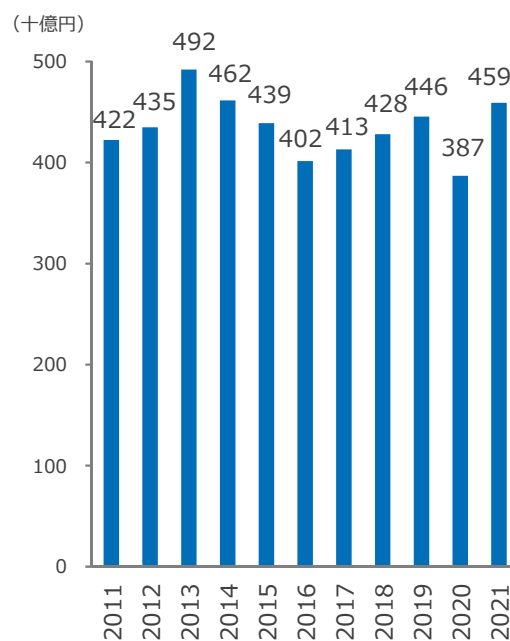
建機、農機、マリン、トラック用エンジンは堅調な需要が続く

建設機械出荷金額



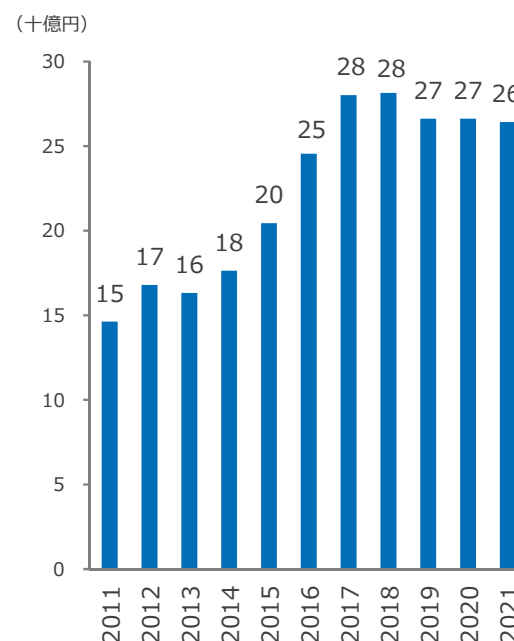
出典：一般社団法人日本建設機械工業会
「建設機械出荷金額統計」

農業機械出荷実績



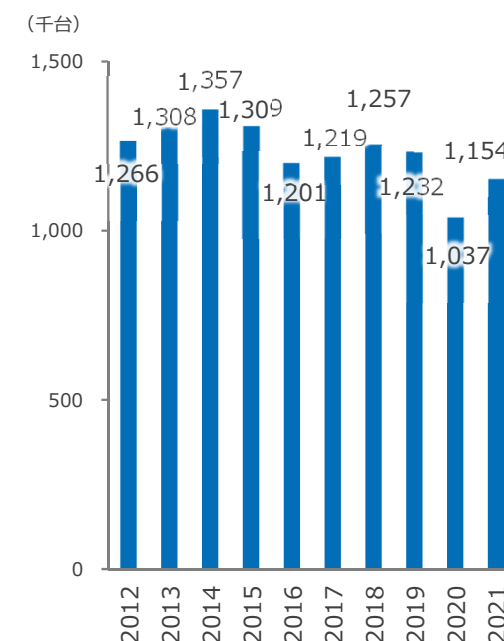
出典：一般社団法人日本農業機械工業会「生産
動態統計（農業機械の生産・出荷実績）」
※補給部品を含まず

マリン事業国内出荷金額



出典：一般社団法人 日本マリン事業協会
「令和3年度マリン業界の出荷及び市場動向
(令和4年6月)」

トラック生産台数



出典：一般社団法人 日本自動車工業会

重点施策① 「グローバルニッチNo.1」製品のさらなる拡大と充実



エンジン部品

国内

- 自動車メーカーの需要への対応によるさらなる売上・シェア拡大
- 建機、農機、産機、マリン・レジャー用エンジン部品の受注拡大
- 革新的な取り組み（IoT、ロボット活用）による生産性向上

海外

- 海外での生産拡大、日系・米系自動車メーカーの現地調達・現地生産の需要取り込み

機械装置

- **エンジン部品向け工作機械**：エンジン部品事業との連携で商品力のアップ、工作機械づくりのDNA継承
- **ワイヤソー、検査装置**：成長が期待できる電子部品・半導体産業への取り組み強化、各要素技術の先鋭化による更なる製品力の向上
- ワイヤソーは、新材料のマーケティングを担い、新材料ブームの到来と終焉を見極め、思い切った商売の急発進・急停止
- 構造改革とポートフォリオ見直しによる高付加価値製品へのリソースの重点配分

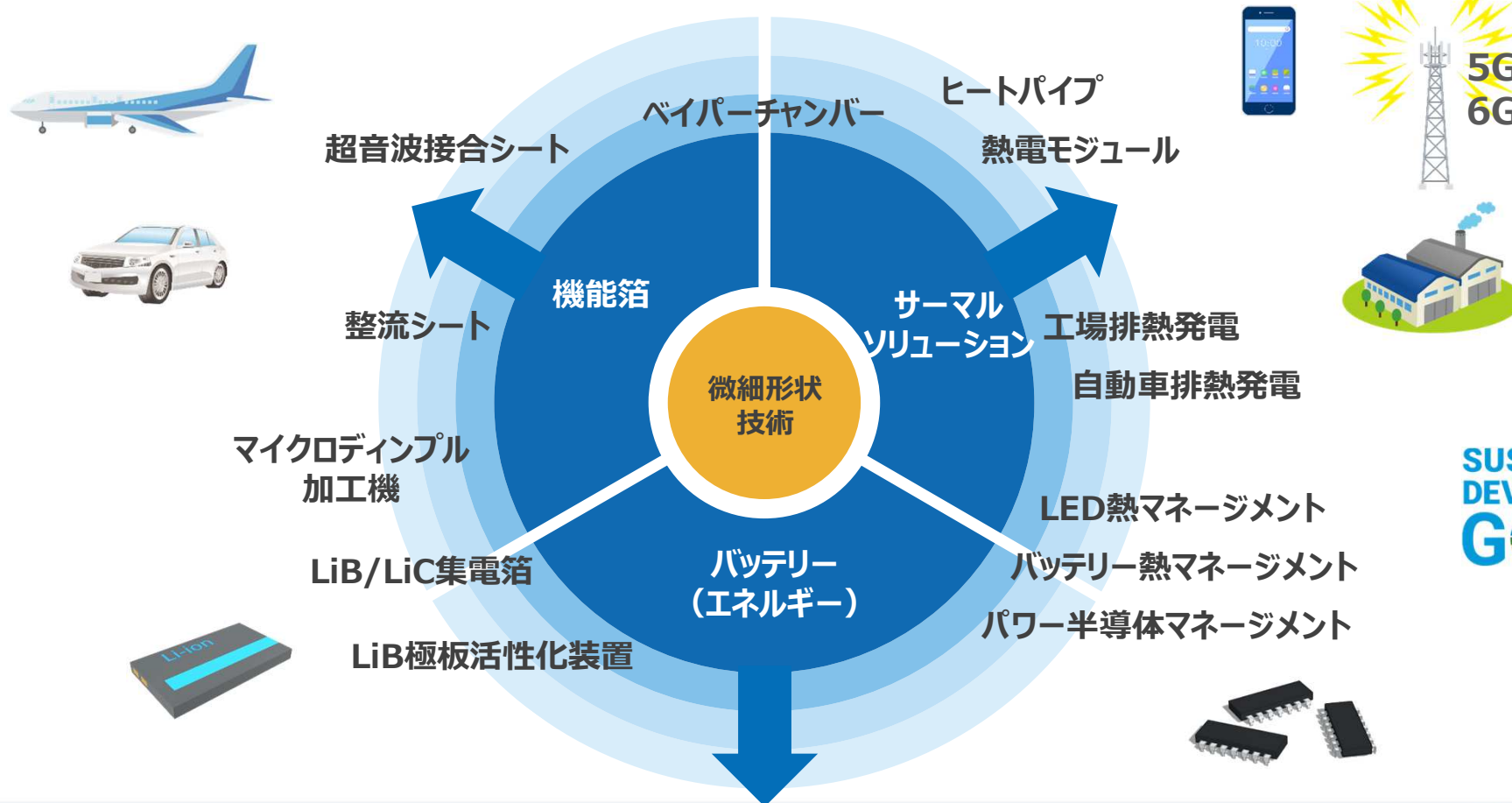
環境機器

- エアーポンプ・ディスポーザシステムの利益強化とシェア拡大、材料費高騰や為替変動の影響を受けにくい体制づくり
- 海外販売の拡充
- 洗車排水システムの要素技術を構築しつつ、本格的な市場投入の可否を見極める
- 環境浄化製品と維持管理サービスを組み合わせた新事業の模索

重点施策② 安永ならではの価値の提供による新事業の創造



二次電池関連、熱電発電素子関連両製品の売上拡大とビジネスモデル確立



重点施策③ 経営基盤の強化



挑戦的な企業風土のさらなる浸透

- 「技術で世の中を驚かせてやろう！」「何か新しいことに挑戦しよう！」という価値観を全社へ広げていく。
- 健全な議論が活発に行われる風土へ変革し、激動と混迷の時代を生き抜く企業になる。
- 「働きがい」「働きやすさ」を感じられる職場環境づくり

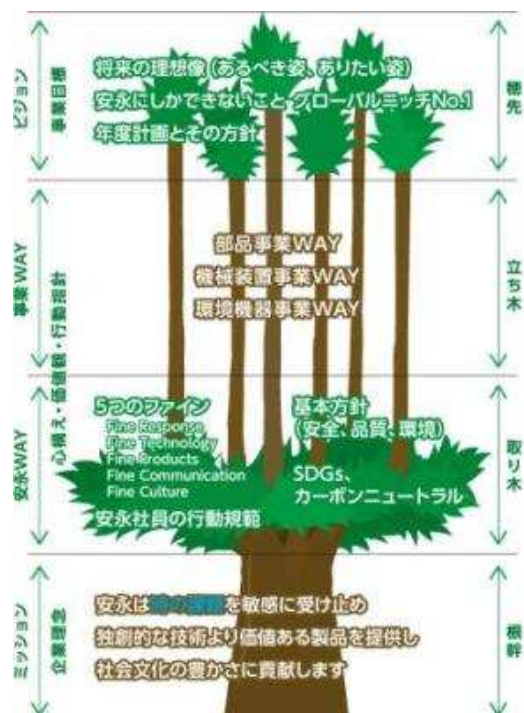
DXの加速による全社的な生産性の向上

- 部品生産ラインモニタリングシステム（IoT）で稼働状況管理
- コンロッド外観検査自動化、生産ラインロボット活用で自動化
- 3D-CADモデル活用で最適モノづくり
- 事務間接部門DX推進

重点施策③ SDGs、カーボンニュートラルへの対応



SDGsを「時の課題」と受け止め、事業活動を通じて価値ある製品を提供することで社会文化の豊かさに貢献



SDGs×イノベーション＝企業価値創造・サステナブルな成長

「CSR重要課題」に向けイノベーションを通じて取組み、企業価値の向上と、サステナブルな成長を目指します

	CSR重要課題	重要テーマ
事業活動	サステナブルな成長 ・ 独創的な新しい技術への挑戦と、生産性の向上で成長を続け、グローバルニッチNo.1を目指します。	① 新たな分野 (SDGs・カーボンニュートラル・CASE) で価値を創出する新技術・商品の開発促進 ② 既存分野でコア技術の伸長、新知見獲得し、ビジネスの拡大 ③ 既存ビジネスの生産性向上 ④ 生産活動におけるCO ₂ 排出量削減、資源の有効活用
	安全・安心な製品・サービスの提供 ・ 安全・安心に使っていただけるように全世界に通用する最高品質を追求し、お客様の満足向上に努めます。	⑤ 継続的な品質向上活動の推進
経営基盤	安全・安心な職場 ・ 全プロセスにおいて人の安全を最優先にし、人に優しい職場づくりに努めます。	⑥ 働き方改革と安全・安心な職場環境の整備
	多様性の促進・働き方改革 ・ 多様性の理解を深め、尊重し、協力しあうことで、創造性を高めます。	⑦ ダイバーシティの取り組みによる人材育成
	コンプライアンスとリスク管理 ・ 社会から信用・信頼される経営基盤を確立します。	⑧ リスクマネジメントの強化 ⑨ 地域貢献

第7次中計の目標



技術を活かしてグローバルニッチNo.1製品の拡充と創造を図り、
2026年3月期売上高365億円、営業利益19億円を目指す



2023年3月期 実績 (百万円)

売上高	33,284	営業利益	1,200
エンジン部品	23,063	自己資本比率	30.2%
機械装置	5,740	ROE	14.1%
環境機器	4,211	配当	167

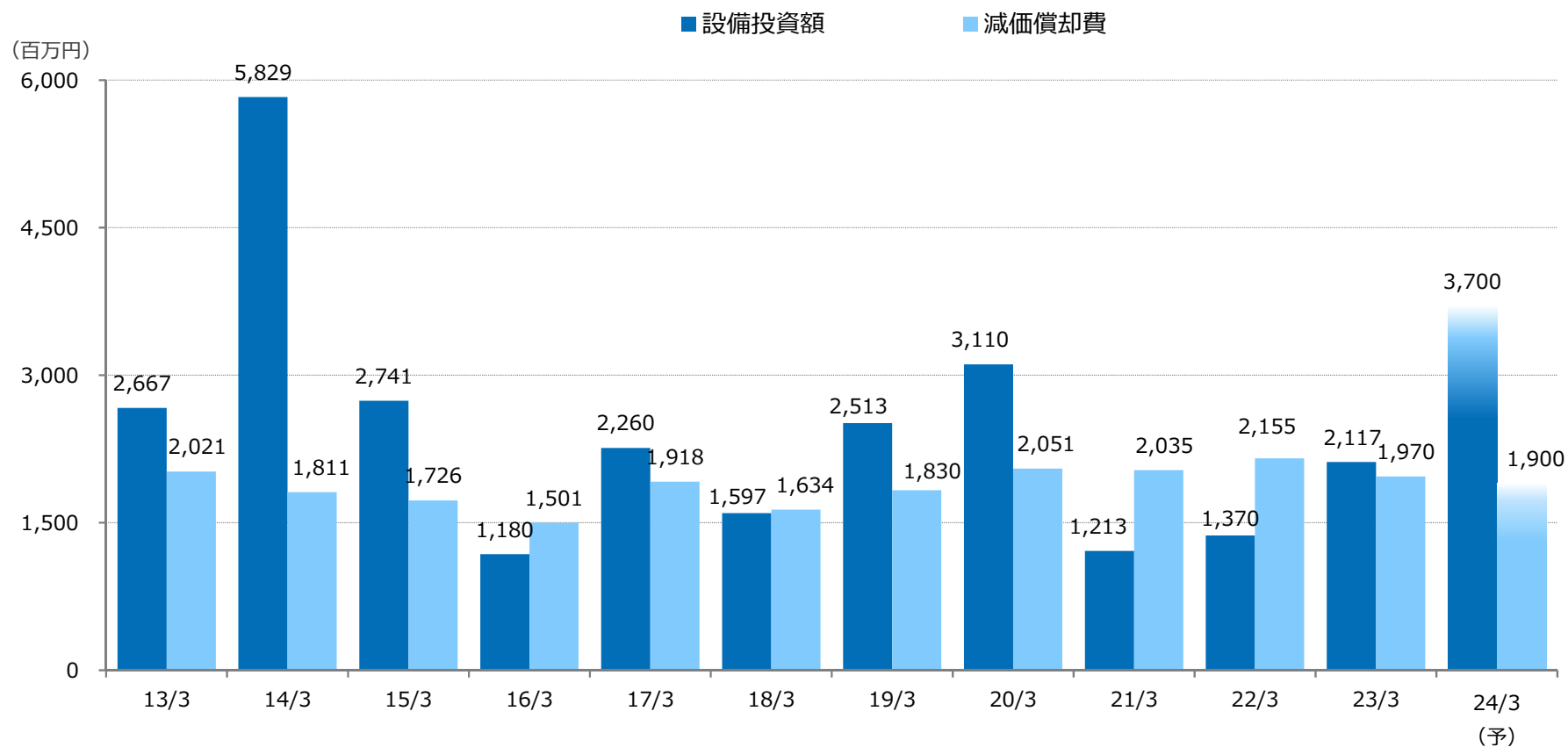
「グローバルニッチNo.1」
の柱を増やす



2026年3月期 目標 (百万円)

売上高	36,500	営業利益	1,900
エンジン部品	25,500	自己資本比率	34%
機械装置	5,300	ROE	10%
環境機器	5,000	配当	179

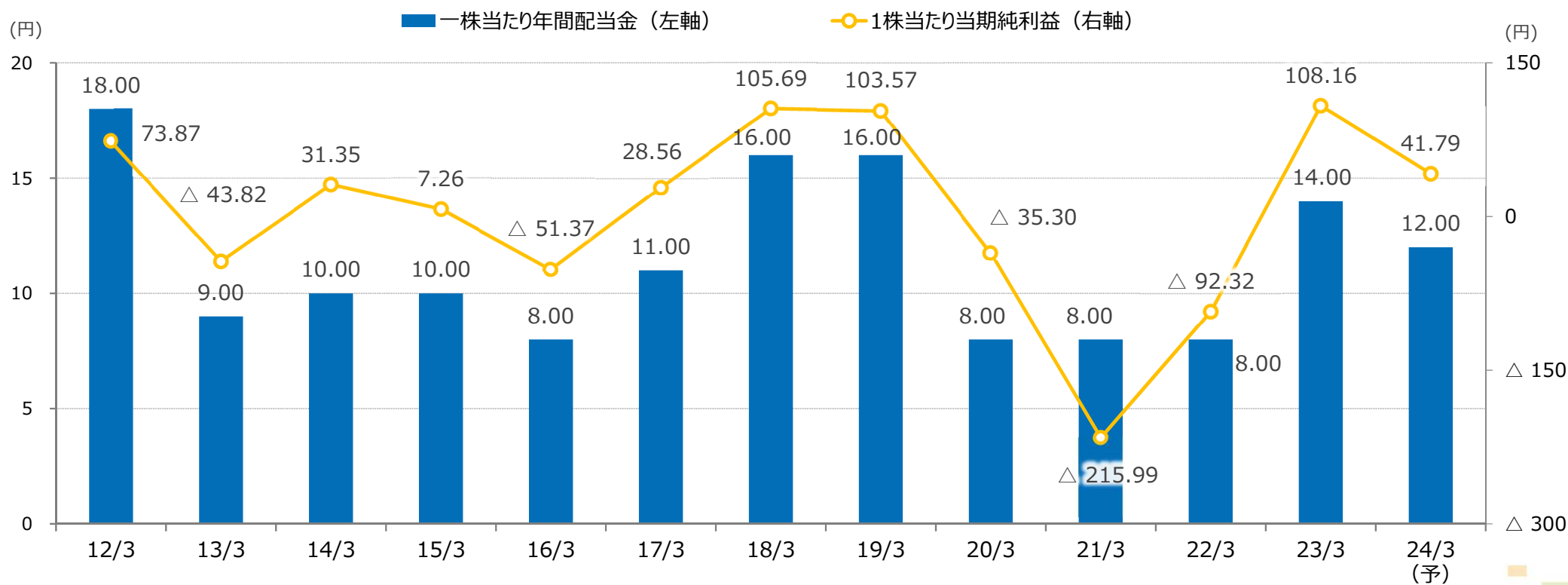
設備投資・減価償却費の推移



株主還元



継続的な配当に加え、業績の拡大に応じた増配を目指す



お問い合わせ先

株式会社安永 経営企画部

住所 〒518-0834
三重県伊賀市緑ヶ丘中町3860番地

TEL 0595-24-2122

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。